

アカデミック・セントラル通信

No. 5 令和七年三月

アカデミック・セントラルと教育改革、その先にある「PRACTISS構想」

東海国立大学機構・機構長補佐／名古屋大学副総長

藤巻 朗

東海国立大学機構以下「機構」という。が発足し、機構直轄組織としてアカデミック・セントラル（AC）が設置され、早くも五年が経とうとしています。寄稿にあたり思い出されるのは、その前年、当時岐阜大学の教育



で難局に直面した際に立ち返ることのできる言葉として生まれたものです。この理念を大事にしたいだけだと幸いです。

ACの重点推進策も、議論の上、次の三点にまとめました。第一は、「学修者本位の教育」の実現です。第二はそこに向けた意識改革、そして第三は、次世代の教育へのチャレンジです。

「学修者本位の教育」の実現に向けた意識改革には、気づきの機会を与えることが重要となりま

担当理事であった江馬先生と、まずは理念となる標語を作ろうと、何度も議論を重ねたことです。歴史ある総合大学が新しい形で統合するわけですから、いろいろと障害が発生することもあるでしょう。加えて大学は、温暖化や災害、未知の感染症の拡大などの地球規模の課題に加え、世界各地で繰り返される紛争などへ対応する総合知も求められるようになりました。さらに想定をはるかに超える日本の人口減少は深刻な問題です。経済的発展を企図したイノベーションの創出機能も大学に強く求められています。「勇気をもって、ともに未来をつくる」は、機構の構成員が前に進もうとし

が、学務情報システムのもとに稼働しています。「学修者本位の教育」の実現に向けた意識改革には、気づきの機会を与えることが重要となりま

す。まず、様々な努力の中の好事例を共有することが重要と考え、教育グッドプラクティス機構長特別表彰制度を設け、令和六年七月に三名の教員を表彰するとともに、取り組み内容を公開しました。次世代の教育へのチャレンジとして、特筆すべき機構の取り組みの一つは、連携開設科目の設置です。両大学で協力して授業を行うことで、学びの幅の広がりを持っています。もう一つは博士後期課程学生に対して、両大学共同で運営を行う「crescendo（クレッシェンド）」と名付けたシステムが全学生対象に稼働しています。名古屋大学でも、令和六年四月より学

生ステータス・システム

（MNS 事業）です。博士後期課程学生（博士課程 LMS）が統合される形で、

「crescendo（クレッシェンド）」と名付けたシステムが全学生対象に稼働しています。名古屋大学でも、令和六年四月より学

生ステータス・システム（MNS 事業）です。博士後期課程学生（博士課程 LMS）が統合される形で、

生ステータス・システム

（MNS 事業）です。博士後期課程学生（博士課程 LMS）が統合される形で、



東海国立大学機構 機構LMS「TACT」ヘルプセンター

お問い合わせフォーム サインイン

言語を選択

▶各種設定手順 ▶各種申請 ▶ネットワークメンテナンス情報 ▶ネットワーク障害情報

Please click 「言語を選択」 on the upper right, select 「英語」, and English translation will appear.

東海国立大学機構 機構LMS「TACT」ヘルプセンター

よくあるご質問 キーワードから探す

キーワードを入力してください



システムのアップデートなどの整備を行ってきました。また、米国の高等教育レベルのICT推進機関であるEDUCAUSEの年次大会での報告などの広報も行いました。TACTの運用に関する一次情報としての各種案内は、「機構LMS『TACT』ヘルプセンター」で公開していますので、ぜひご利用ください。

学生ステータス・シス テム

大学生になったばかりの学生が一番悩むことの一つは、どの講義を履修するかでしょう。友人と相談しながら履修する講義を決定し、授業に参加します。その後で、どのような学修成果が得られ、それが自分自身の成長にいかに関与しているのかわかれば、その後の学習の動機付けにさらに立ちます。

このように、学修者自身が、自分自身の成長を確認しながら、履修計画することを補助するシステムを、機構では学生ステータス・システムと名付けています。このシステムは、学修者自身が学修成果・到達度等を可視化して確認するとともに、課外活動や留学などで、GPAや修得単位数だけでは表せない活動成果をも可視化することに役立ちます。今後は運用チームを組織し、より効率的な運用を図っていきます。

教育グッドプラクティ ス機構長特別表彰式開 催

機構では令和六年七月二十四日、名古屋大学豊田講堂において、第一回教育グッドプラクティス機構長特別表彰式を行いました。今回は、岐阜大学より一件、名古屋大学より二件を選考しました。

表彰式には、受賞者である岐阜大学の清島絵利子准教授、名古屋大学の川崎猛史講師と頼偉寧特任准教授に加えて、松尾清一機構長と杉山誠岐阜



(左より)松尾機構長、川崎講師、頼特任准教授、藤巻本部長、杉山岐大副学長



(左より)杉山岐大副学長、清島准教授、松尾機構長、藤巻本部長

大学副学長が出席されました。最初に、教育基盤統括本部長である私より各授業の表彰理由について説明した後、松尾機構長より受賞者に表彰状と副賞が授与されました。機構長からは「学ぶことの大切さや面白さを教えてくれる教員に出会うことは、学生にとって一生の宝物になる。今後もさらに研鑽を積み、より良い人材の輩出に繋げてほしい。」と謝辞が述べられました。その後、表彰式参加者による懇談及び記念写真の撮影を行いました。

東海国立大学機構メイ ク・ニュー・スタンダー ド次世代研究事業

本事業で採択する学生は、学生であると同時に研究者でもあることから

RESEARCH+STUDENT

を示す RESEARCHENT と履修生を呼んでいます。彼らが新たな視点を持つ

ことが、研究の深化の上でも、イノベーション創出の観点からも重要な取り組みです。そのためには、多様なバックグラウンドの研究者と、時間をかけて話し合い、同じ目標に向かって協働する経験が必要となります。また、海外に飛び出し、研鑽を積むことも重要です。MNS事業では、こういった場を様々な形で用意しています。令和六年度は RESEARCHENT が一堂に会して議論するブートキャンプを実施しました。大学や専門領域を超えたグループからの提案は、新鮮で高い可能性を感じました。今後はこのような場で出たアイデアをさらに発展させる仕組みを模索していきたいと考えています。

なお、本事業は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) 「次世代研究者挑戦的研究プログラム」

編集委員会

編集長 藤巻 朗 副編集長 益子 典文

編集委員

安部 有紀子、加藤 真紀、北 栄輔、清島 絵利子、古泉 隆、児玉 英明、小松 雅宏、齋藤 芳子、椎名 貴彦、高橋 周平、白村 直也、竹永 啓悟、長谷川 暁人、福岡 大輔、益川 浩一、松本みゆき、神酒 太郎、安田 淳一郎、山里 敬也、和嶋 雄一郎